

# 一旧麓の紹介・見学して一

## 〈旧麓の自然〉

旧麓は、素晴らしい自然に囲まれています。その中の、いくつかを紹介していきます。

### ―香梅ヶ淵―

旧麓には「香梅ヶ淵」という川があります。香梅ヶ淵は、エメラルドグリーン色に見えることで有名な川です。その自然の美しさから、珍しい鳥も現れることがあります。運が良ければ、珍しい鳥に出会えるかもしれません。日によって、いろいろな姿を見せる香梅ヶ淵ですが、とある悲しい伝説が…

### ―豊かな水―

今も用水路には、豊かな水が流れています。昔は洗濯に使ったり、大根などの野菜を洗ったり、夏には、スイカを冷やして食べたりと、その水は**人々の生活の役に立っていました**。用水路を流れる水は、先ほど説明した香梅ヶ淵から流れている水で、とても冷たく、涼むにはとてもいい場所です。

### ―山城―

旧麓で見える、緑豊かな山。その山は、島津と他の大名が戦った時に大いに活躍してくれた山です。島津家の軍は山の上に、敵の軍は山の下にいたため、敵の軍が島津家の軍を倒すには山をよじ登ってこなければいけません。そのため、島津家の軍の方が有利な状況となり、戦にも勝つことができたのです。そこで、「山城」という名前がつけました。

## 喜び入る旧麓の文化財

### 〈首無し地蔵〉



首無し地蔵

#### はいぶつきしゃく

明治に、**廃仏毀釈**という新しい考えが生まれたため、お寺の僧侶の首をわざと斬り落とす風習が生まれました。そのため、首のない地蔵が、まだ残されているのです。

### 〈田の神さあ〉



旧麓の田の神さあ

旧麓にいる田の神様は、右手にしゃもじ、左手に擦るための棒を持っていて、とても珍しい田の神様です。

### 〈南方神社〉



南方神社



南方神社特殊の四角い竹

### 〈肝付家墓地〉



肝付家のお墓

―肝付家墓地―  
肝付家墓地には、三代から十二代肝付家当主・そして、その家族が眠っています。長い時間が流れていることが分かります。

―南方神社―  
明治の初めの頃に、廃仏毀釈で、近くのお寺が無くなり、その近くに建てられたのが、南方神社です。南方神社の近くでは、四角い特殊な竹が生えています。

### 〈香梅ヶ淵の伝説〉

昔、喜入町は肝付家によって治められていました。肝付家のお城には「香梅（こうばい）」という侍女が仕えていました。その香梅が来ている着物の帯が擦れてオナラのような音が出てしまいました。「殿様の前でオナラをするなんて無礼だ」とみんなに勘違いされて追い込まれ、香梅は、深い淵に自ら身を投げて、命を落としました。

この悲しい伝説が「香梅ヶ淵」という名前の由来です。

～引用～

・ボランティアの方々のお話

・喜入町郷土誌

# ～喜び入る旧麓～

## 《日本遺産》 《十二ヶ所の麓》

【串木野麓】串木野麓は、中世の串木野城を中心に広がっていた麓。

【出水麓】出水麓は、肥後国（現熊本県）との境にあり、藩の防衛上、特に重要な拠点の一つだった。

【入来麓】入来麓は、中世の清色城跡と樋脇川に囲まれた場所に作られた、防衛に優れた麓。

【里麓】里麓は、中世山城跡のすそにあるお飯屋跡。そこを中心に広がる武家屋敷群であり、海に面している。

【手打麓】手打麓は、手打湾に沿って湾曲した麓で、他の麓と異なり、海を臨む立地が特徴の麓。

【蒲生麓】蒲生麓は、当時の武士も仰ぎ見た圧倒的な巨木、日本一の大クスに守られた麓。

【知覧麓】知覧麓は、旧街道沿いの両側に石垣、生垣が整然と続き、その間に武家門を持つ武家屋敷が並び、薩摩の典型的な武家屋敷群の形を表している。

【加世田麓】加世田麓は、曲線の旧街道沿いの細長い平地を中心に広がっていて、防衛上有利な地形にある麓。

【垂水麓】垂水麓は、日本遺産の十二麓の中で唯一、島津一門家による格式高い麓。

【志布志麓】志布志麓は、高鍋藩との境にあり、藩の防衛上、特に重要な拠点の一つ。

【喜び入る町・喜入旧麓】江戸時代の初期の千六百五十年代、突然の麓の移転で時が止まってしまった麓。他の麓にはない魅力がたくさん含まれている。  
香梅ヶ淵というエメラルドグリーンの色をした綺麗な淵。そして、そこから流れる綺麗な冷たい用水路。敵を倒す時に大活躍してくれた山城。私たちの知らない旧麓の歴史を語っているような昔からあるクスノキ。これらの旧麓の自然豊かなだけでは、牧瀬家の武家門や喜入を治めていた肝付家三代目十二代当主が眠っているお墓。当時の貴重な麓の原風景に触れることができる。ぜひ、あなたも新しい発見がたくさんある、当時の貴重な麓に触れてみませんか？

## 旧麓



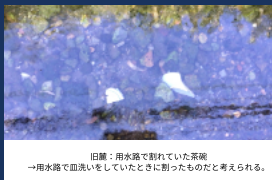
南方神社：後ろのクスノキ



旧麓公民館では、その年の干支を木造で作っています。



旧麓：肝付家のお墓



旧麓：用水路で割れていた茶碗  
→用水路で洗い流していたときに割ったものだと考えられる。



旧麓：南方神社（鳥居）



旧麓：用水路

## 《日本遺産》

## 《世界遺産》

日本遺産は、遺跡のほか習慣や伝統、モノといった、個別の「点」(＝文化財)を生み育んできた「文化そのもの」を結びつけ、ストーリーとして魅力的なパッケージにしたものであり、その活用を目的としている。

## 目的

世界遺産には文化遺産・自然遺産・複合遺産の3つの種類があり、どれも「有形の不動産」であることが求められている。遺跡や地形、生息地といったもの。

## ちがい

日本遺産は、文化庁が認定した、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーが対象となっている。各地域の魅力溢れる有形・無形の文化財群を、地域が主体となって整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図ることを目的とした、日本の文化遺産保護制度の一つである。

世界遺産は、1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づいて世界遺産リストに登録された、文化財、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のことで、移動が不可能な不動産が対象となっている。

## 認定基準

- ①ストーリーが興味深く斬新で、地球・日本の魅力を十分に伝えること。
- ②日本遺産に認定された後、どう活用するか具体的なビジョンがあること。
- ③地域活性化を推進するにあたり、可能な体制が整備されていること。

- ①人間の創造的で天才的傑作を表している
- ②人類の価値の重要な匂留を示すもの
- ③人間の歴史上、重要または芸術的、技術的特徴を持つ構造物・建造物。顕著な景色である。
- ④文明（または文化）の発展または、環境への働きかけで領土・領海が伝統的に人間の和解と開拓立地、不可逆的に変わってきたことを示す代表的な事例である
- ⑤文化的伝統または少なくとも稀な証拠
- ⑥顕著で普遍的な意義を有する出来事、現在する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と直接または明 白に関連するもの。
- ⑦並外れた自然の美しさと審美的な最上級の自然現象または地域である。
- ⑧地球の歴史の主な段階を代表する優れた事例で、生命記録や、地殻変動や地質学的特徴をもつ地質学的プロセス
- ⑨進化と地上の開拓、淡水、沿岸および海洋生態系と動物植物の共存関係のなかで、進行中の生態系と生物学的プロセスを要する
- ⑩科学や環境保全の観点から優れた普遍的価値を持つ絶滅危惧種や生物多様性の現場保全のための重要な自然の 生息地である。

## ＝まとめ＝

麓の見学を通して、驚いたのは、**香梅ヶ淵の水の綺麗さ**です。香梅ヶ淵の水で昔も今も野菜やスイカを洗ったり、冷やしたりしている事を知りました。「夏に香梅ヶ淵の水で冷やすと、絶対に美味しくなるだろうなあ」と思いました。旧麓の自然の豊かさは、わたしたちの暮らしにも関わっているのかもしれないね。香梅ヶ淵が喜入町の誇りになってほしいです。

肝付家墓地では、喜入校区を肝付家が治めていた事がわかりました。**3代目～12代目の肝付家当主**が（家族も）喜入墓地にねむっている事を知りおどろきました。紹介はしていませんが、旧麓には「武家門」があります。武家門は景観指定されていて、歴史を感じることができる門です。

今回、私たちが学んだ事以外でも、旧麓にはたくさんの魅力があります。今まで知らなかった、私たちの身近にある旧麓について知ることができてよかったです。

鹿児島にしかない（鹿児島城跡含め）十二ヶ所の“麓”これを見ている人もぜひ、歴史的な場にふれあい、考えを深めてみてください。